

平成22年度

こと はじめ

予算 事 始

さがみはらの予算をわかりやすく解説します



contents

P 2 予算の基礎知識

- ・予算って何のこと？
- ・予算は誰が決めるの？
- ・『会計』のしくみについて

P 4 歳入（1年間の市の収入）

P 6 歳出（1年間の市の支出）

P 8 平成22年度の主な取り組み

P 10 相模原市財政の現状

P 14 相模原家の家計簿

相 模 原 市

予算の 基礎知識



それではまずはじめに、
基本的な疑問にお答えしましょう。
予算とはどういうものなのでしょう？

予算って何のこと？

皆様のご家庭では、お給料がいくらもらえるか、食費や教育費、電気代などがどのくらいかかるかなどを計算しながら、家計をやりくりしていると思います。また、お子さんであれば、おこづかいやお年玉の使いみちを、あれこれ考えるでしょう。

国や地方自治体も同じように、1年間の^{*}入ってくるお金（歳入）を計算して、どのような仕事にいくらお金を使うか（歳出）を決めています。このようなお金の計画を見積りしたものを『予算』とよんでいます。ですから『予算』を見ると、相模原市の家計事情や仕事の中身が分かる仕組みになっています。

^{*} 国や地方自治体の1年間とは、4月1日～翌年3月31日までの期間をいいます。

たとえば家庭では・・・



予算は誰が決めるの？



福祉、教育、ごみ処理、道路の整備など、市役所がやらなければならない仕事はたくさんありますが、皆さんにより良い生活を送っていただくために何をしたら良いか、そして、そのために必要なお金の確保と使いみちを市役所のさまざまな部署で検討します。市長は、その検討結果に総合的な判断を加えて予算の案を作成します。

できあがった予算案は市議会に提案され、選挙によって選ばれた市議会議員が内容を審査します。そして市議会の議決を受けてはじめて、予算が決まります。つまり、予算は、皆さんが選んだ『市長』と『市議会議員』が決めているということになるのです。



相模原市の予算や財政に関する詳しい情報は市ホームページでご覧いただけます。

<http://www.sagamihara.kanagawa.jp/>

【トップページ】⇒【市政情報】⇒【政策・総合計画・財政】⇒【市の財政】からアクセスしてください。

『会計』のしくみについて

特定の収入（国民健康保険税、下水道使用料、介護保険料など）がある事業については、お金の出し入れを分かりやすくするため、お財布を分けて管理する必要があります。このお財布のことを『会計』といい、福祉・教育・道路整備など皆さんの生活に広くかかわる会計を『一般会計』、その他に、目的によってお財布を分けてつくる会計を『特別会計』とよんでいます。

相模原市には、右に示すように11の特別会計があります。

一般会計

福祉

教育

道路整備

(他)

特別会計

- 国民健康保険事業
- 財産区
- 下水道事業
- 農業集落排水事業
- 自動車駐車場事業
- 後期高齢者医療事業
- 介護保険事業
- 老人保健医療事業
- 母子寡婦福祉資金貸付事業
- 公債管理
- 簡易水道事業



ではいったい、相模原市の予算はどれくらいなのでしょう…？

平成22年度
一般会計予算額
2,340億円

平成22年度
特別会計予算額
1,643億円

※11の特別会計の合計額（億円未満を四捨五入）

平成22年度一般会計予算と人口の県内他市との比較

※人口は22年1月1日現在

横浜市（約367万人）	1兆3,604億円
川崎市（約141万人）	6,117億円
相模原市（約71万人）	2,340億円
横須賀市（約42万人）	1,397億円
厚木市（約23万人）	752億円

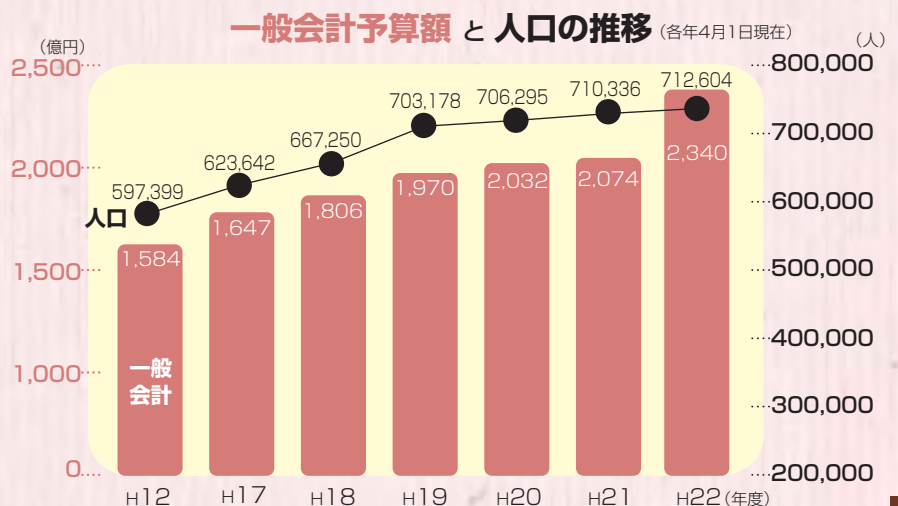
県内では、横浜市・川崎市に続き3番目の予算規模です。

※人口は万人未満、相模原市以外の各市の予算額は億円未満を四捨五入。

右のグラフのとおり、人口の増加とともに一般会計の予算額も年々増加しています。

平成22年度は、政令指定都市移行に伴う県からの事務移譲等により、12.8%の大幅な伸びとなっています。

※平成18・19年度の数値には、津久井地域との合併による増分を含んでいます。



歳入

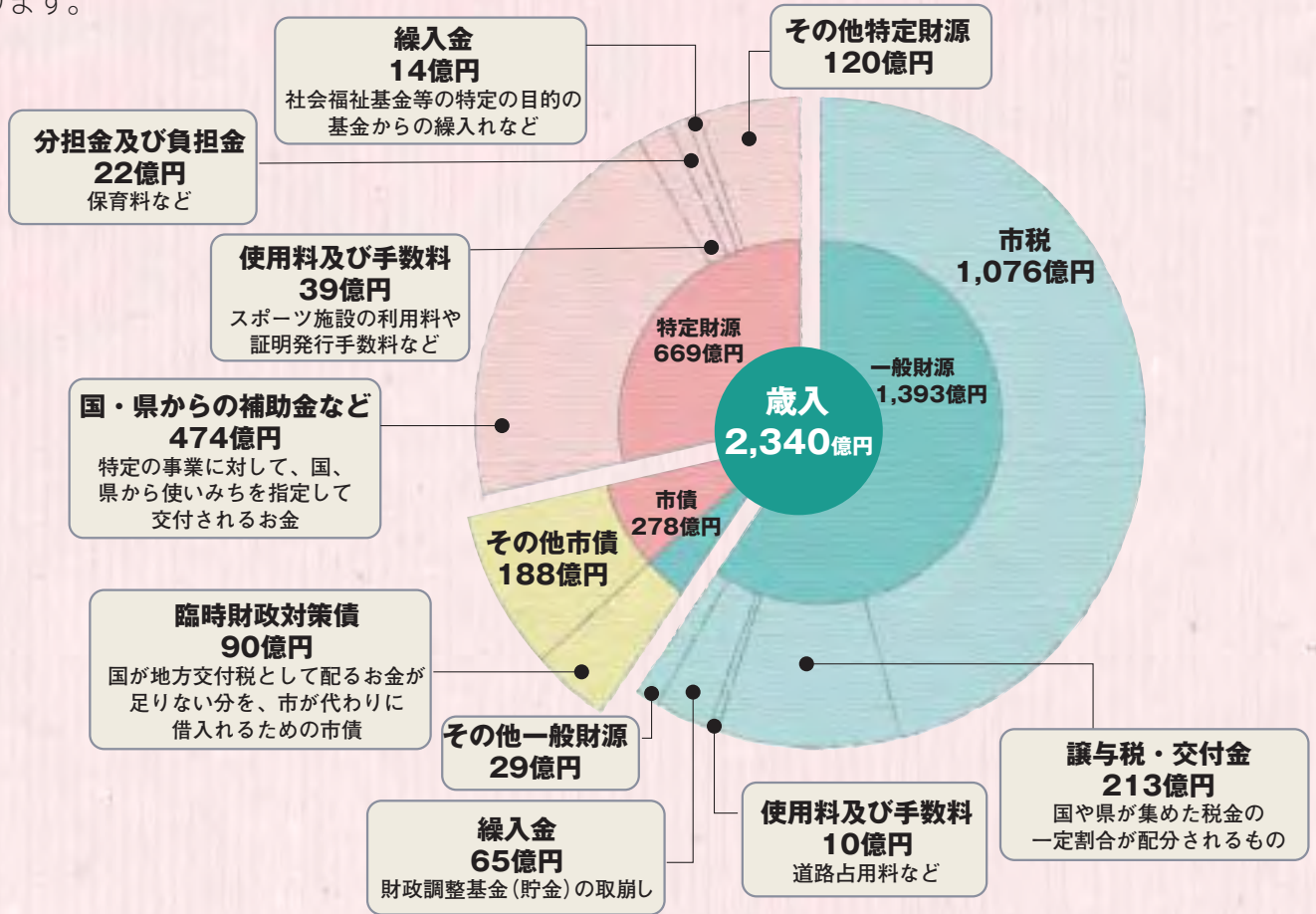
1年間の市の収入



それでは、平成22年度一般会計予算の中身についてご説明していきます。

市の収入にはどんなものがあるの？

相模原市の収入（歳入）のうち、もっとも大きな割合を占めているのが『市税』です。このほか、国や県から配られるお金や借入金（市債）など、さまざまなものがあります。収入は、使いみちが自由な「一般財源」と、使いみちが決められている「特定財源」に分けられます。市がさまざまな市民ニーズに対応して事業を行っていくためには、一般財源の確保がとても重要になります。



市税の内訳 市税は収入全体の46%となっています。主な内訳は次のとおりです。

個人市民税 438億円
個人の収入などに応じて納めていただく住民税のことです。

固定資産税 431億円
土地や建物などをお持ちの方に納めていただきます。

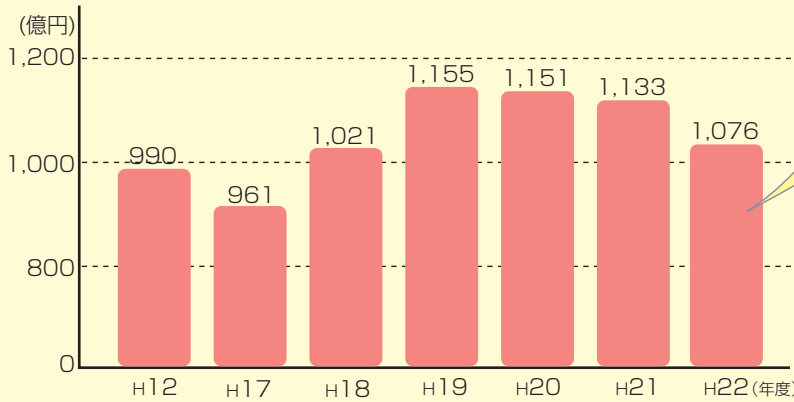
その他 72億円
軽自動車税やたばこ税など

法人市民税 48億円
市内にある会社に納めていただきます。

都市計画税 87億円
市街化区域内に土地や建物などをお持ちの方に納めていただき、区域内の整備に使います。

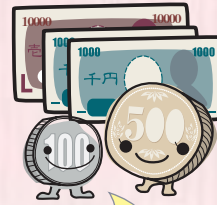
市税は増えているの？ 減っているの？

市税収入の推移



※平成12～20年度は決算額、21・22年度は当初予算額で示しています。
 ※平成18・19年度は津久井地域との合併による増分を含んでいます。

市民一人あたりでは
約15万円です
 (対前年度 9,000円減)



1ヶ月の平均は
約12,600円です。

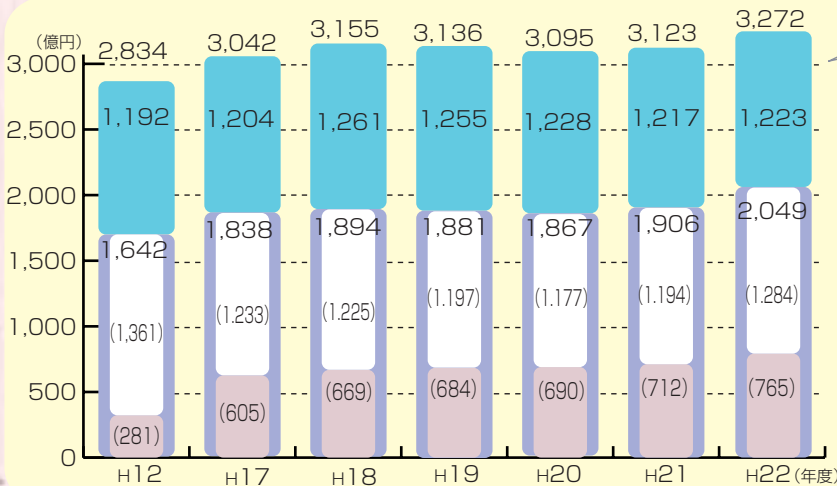


相模原市の歳入でもっとも大きな割合を占める市税は、経済不況による個人・法人市民税の減などにより、前年度と比べ57億円の減収となる見込みです。

市債ってどうして必要なの？

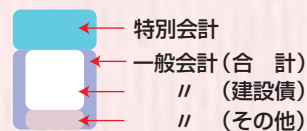
市債は借金ですから、無いほうが良いと考えるのがあたりまえです。でも、公園や道路などの整備に必要なお金を1年間の予算でまかなってしまったら、その年は他の仕事が出来なくなってしまいます。それに公園や道路はこれから長い間、たくさんの方が利用する施設ですから、将来の市民の方にも平等に費用を負担していただくことも、市債を発行する理由の1つです。ただし、借入れが多くなればなるほど返済が大変になりますので、相模原市は計画的な市債の発行に努めています。

市債残高の推移



※平成12～20年度は決算額、21・22年度は当初予算額で示しています。
 ※平成18・19年度は津久井地域との合併による増分を含んでいます。
 ※その他は、減税補てん債、臨時財政対策債など

市民一人あたりでは
約46万円です
 (対前年度19,000円増)



※臨時財政対策債とは

国から地方自治体に分配する地方交付税が不足するため、その不足分の一部を地方自治体が借入れをしてまかなうものです。その使い道は自由であり、後年度その元利償還金の全額が地方交付税の算定に反映されるしくみとなっています。ただし、あくまでも地方自治体の判断による借入金なので、適正な財政運営が必要となります。

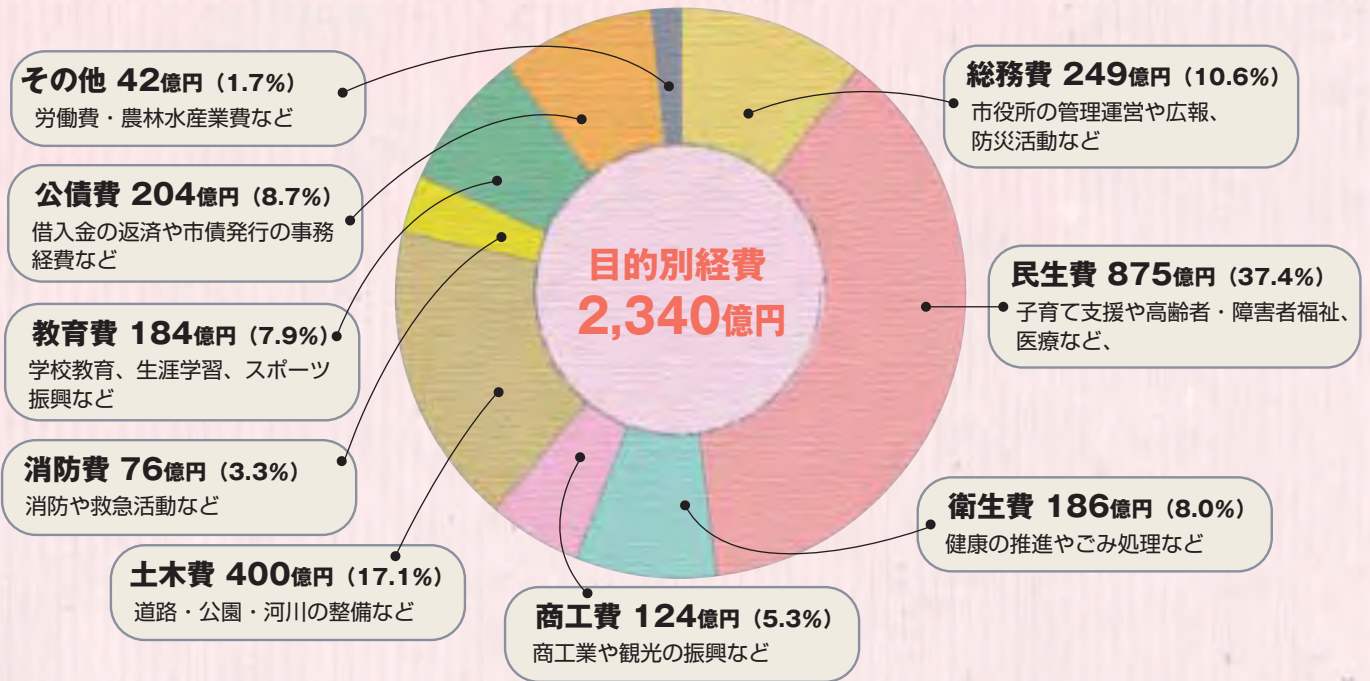
歳出

1年間の市の支出

歳出は、使いみちや目的によってさまざまな見方をすることができますが、ここでは『目的別経費』と『性質別経費』という2つの分類方法で説明します。

目的別経費とは・・・

歳出をサービスの目的で分類したもので「福祉や医療などの経費（民生費）」、「保健所の運営、ごみ処理などの経費（衛生費）」、「学校教育や生涯学習などの経費（教育費）」などに分けられます。



歳出全体に占める割合は民生費が最も高く、予算の約3分の1を占めています。これは、少子高齢化の進展に伴い、福祉や医療に必要な経費が増えていることなどが主な理由です。

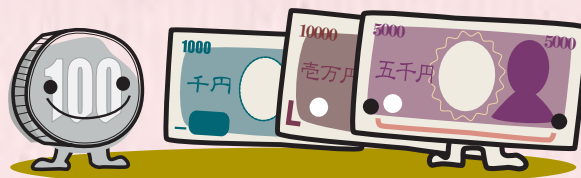
財政虎の巻 1

継続費

市の予算は4月～3月までの1年度内の収支を表しています。大きな橋の建設や区役所の新設など1年間では終わらない大規模な事業も数多くあります。このようなものの支出は翌年度以降の分もふくめ、その全体額を「継続費」として予算書に明記しています。

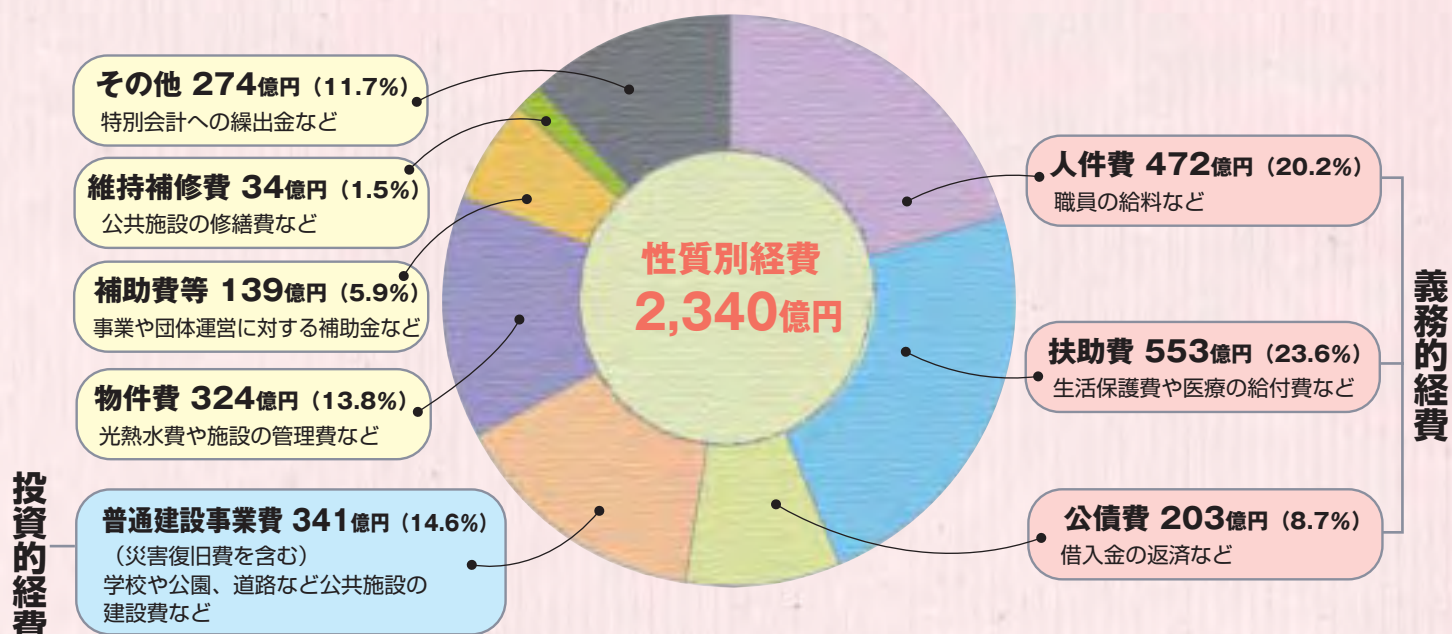
債務負担行為

将来支払うことを約束する行為を「債務負担行為」と呼んでいます。都市整備公社など市の関連団体が銀行から資金を借入る際の損失保証（市が連帯保証人をするようなもの）など支払いが必要となるかどうかは明確でないものは支出として予算には計上しませんが、「債務負担行為」としてその限度額などを予算書に明記しています。



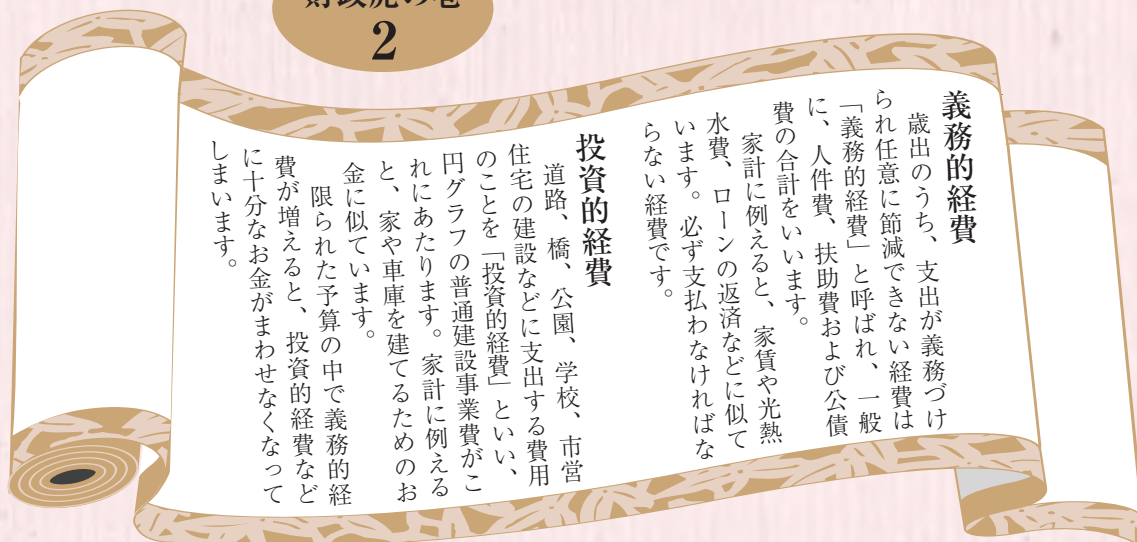
性質別経費とは . . .

歳出を経費の性質に着目して分類したもので、「人にかかる経費（人件費）」「建物など将来への投資となる経費（普通建設事業費）」などに分けられます。



歳出のうち、任意に削減することのできない経費（人件費・扶助費・公債費）のことを『義務的経費』といいます。扶助費については高齢化や医療費の増大などにより年々増加していますが、人件費と公債費については削減に努めるなど、義務的経費の割合を低くするための取り組みを進めています。

財政虎の巻 2



平成22年度の 主な取り組み

平成22年度当初予算につきましては、厳しい財政状況にあっても、福祉や医療などを優先とした市民の暮らしの向上、政令指定都市にふさわしい行政サービスの充実、相模原市の将来の発展につながる取り組みの推進などに重点を置いた予算編成を行いました。

重要な政策課題

● 区役所・まちづくりセンターの設置 3億4,850万円

緑区・中央区・南区に各区役所を設置するとともに、旧出張所管区ごとに「まちづくりセンター」を設置します。

● (仮称) 緑区合同庁舎の整備 12億6,291万円

緑区の行政サービスの拠点として、区役所、保健福祉センター、メディカルセンターなどの複合施設となる合同庁舎の建設を進めます。

重点施策 (政令指定都市分)

● 区民主体の まちづくりの推進 1億3,669万円

・各区ごとに「区民会議」、市内22地区に「まちづくり会議」を設置し区民主体のまちづくりを推進します。



● 児童相談所の設置・ 要保護児童支援の推進 15億2万円

・児童に関する専門的な相談、一時保護などを行う児童相談所を設置します。

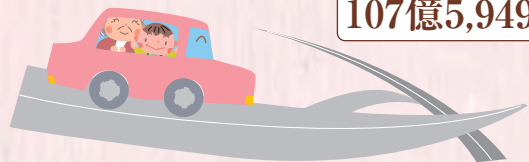


● 津久井地域における 市立診療所の運営 1,952万円

・これまで県立であった3つの診療所を引き継ぎ、市立の診療所として運営を行います。



● 広域的な道路ネットワークの整備 107億5,949万円



・国が行う、さがみ縦貫道路と市内インターチェンジの整備費の一部を負担するほか、津久井広域道路や県道52号など広域的な幹線道路の整備を進めます。

● 消防力の強化に向けた取り組み 1億7,000万円

・特別高度救助隊の創設に向けて、特殊災害対応車両などを購入するとともに、職員の養成を行います。



政令指定都市移行の主な効果

政令指定都市移行により、次のような効果が期待できます。

■ 区制の施行

市域を3つの区(緑区、中央区、南区)に分け、区役所を設置しました。区役所では、市民の皆様身近なサービスを提供するとともに、区の個性や特徴を活かしたまちづくりに市民と協働で取り組みます。

■ 都市ネットワークの拡大

先進的な都市との広域的な交流を通し、その成果を「相模原市の施策の充実」として反映することができます。

■ 事務移譲

保健・福祉

● 児童相談所の設置

県設置の児童相談所が市の設置となったため、相談受付から施設入所措置までを切れ目なく一貫して市が行うことができるようになり、スピーディーな対応が可能となりました。

● 身体・知的障害者更生相談所や精神保健福祉センターの設置

これまで県内他市の施設で行われていた専門的な相談業務などが市内で行われるようになりました。

重点施策

● 保育所の待機児童緊急対策の推進

8億2,185万円

- ・保育所に入所を希望しながら入れない待機児童の解消に向け定員を拡大するため、民間保育所の整備に対し、建設費の一部を補助するなど整備の促進を図ります。



● 特別養護老人ホームの整備促進

15億3,000万円

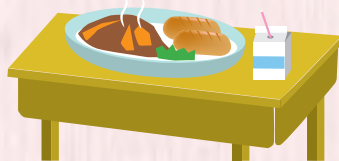
- ・特別養護老人ホームの建設に対し、建設費の一部を助成し施設整備の促進を図ります。



● 中学校完全給食の推進

- ・中学校での完全給食の全校実施に向け、市内南部15校で給食を開始します。

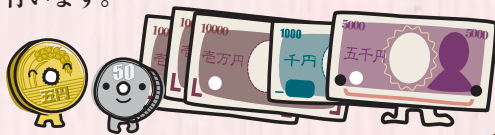
3億6,570万円



● 緊急経済対策の実施

79億6,330万円

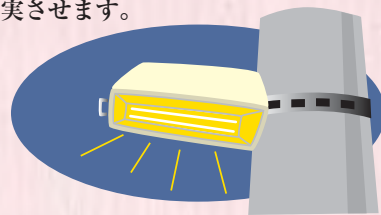
- ・景気の低迷に伴い中小企業への融資枠の拡大や緊急雇用事業などを行います。



● 地域の防犯力の強化に向けた取り組み

2億3,775万円

- ・自治会での防犯灯の設置費用に対する助成などを充実させます。



● 地球温暖化対策や電気自動車の普及に向けた取り組み

1億2,959万円

- ・地球温暖化対策推進基金を活用し、家庭への太陽光発電施設の設置費用の一部を助成したり、電気自動車の購入費の一部を助成するなど地球温暖化対策に向けた取り組みを進めます。



● 水源地域の環境保全に向けた取り組み

21億6,162万円

- ・ダム周辺など水源地域の環境を保全するため、公共下水道の整備や高度処理型浄化槽の整備を進めます。



● 市街地再開発事業の促進

59億6,148万円

- ・相模大野駅西側地区や小田急相模原駅北口の市街地再開発事業に助成し、事業の促進を図るとともに周辺道路の整備費を負担します。



都市計画・建設・土木

● 都市計画の決定

決定権限の拡大により、大規模なプロジェクトの計画から実施まで、市が主体性を持ってスピーディーに行うことができるようになりました。

● 国道・県道の管理

国道16号、20号など一部を除き国道、県道も市が管理をするようになりました。市内の道路のほとんどを市が一元管理することで、市の計画に沿って主体的な整備や維持管理ができるようになりました。

教育

● 小中学校の教職員の採用等

相模原市への愛着や情熱を持つ先生方の採用を、市が主体的に行えるようになりました。これにより、さがみはら教育をよりよいものにしていくことが可能になりました。

その他

- 大規模小売店舗立地法の運用
- 特別高度救助隊の設置（平成23年度に設置予定）
- NPO法人の設立認証など

相模原市財政の現状

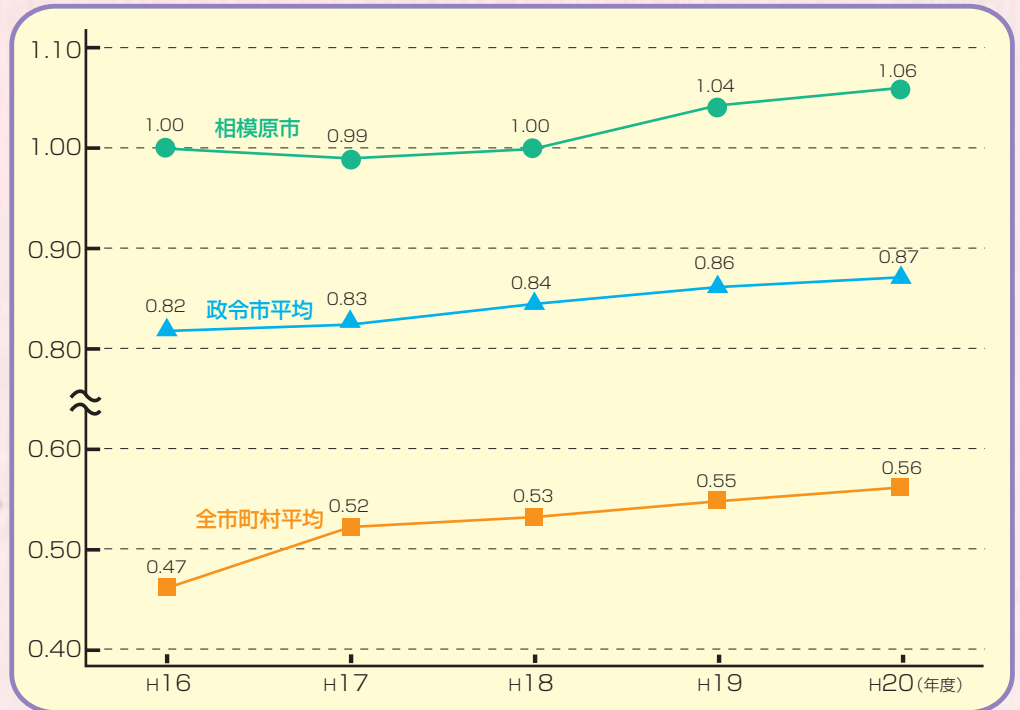
相模原市財政の現状について、
主な財政指標を見てみましょう。

Q1. お金は足りているの??

財政力指数 (収入と支出を国の基準に基づいて比べたもの)

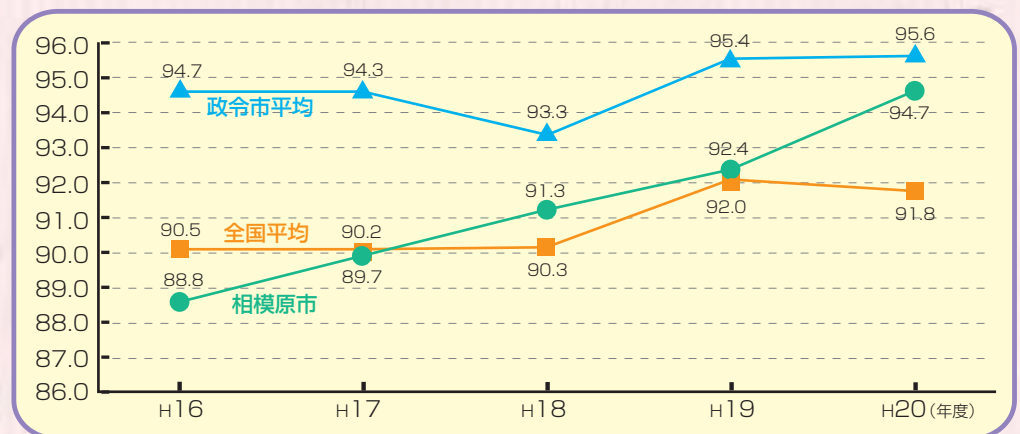
数値が『1』を下回ると国からの支援なしではやりくりが難しくなります。

相模原市は、財政力指数が1を超えており自立的な財政運営を行うことが出来ていますが、財政状況に決してゆとりがある訳ではありません。



経常収支比率 (市税などの常に見込める収入と公債費など常に支払う必要がある支出を比べたもの)

義務的経費などの削減が難しい経費がどの程度あるかの指標です。数値が低いほど新しい仕事にお金を振り向けることができます。

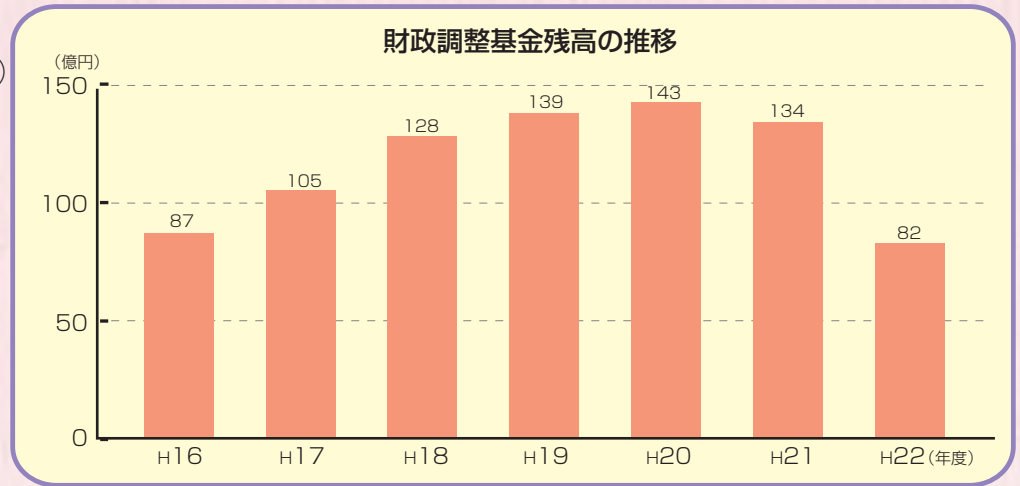


相模原市は年々数値が上がっており、お金の使いみちの自由度が少なくなっています。これを「財政の硬直化」といいます。硬直化が進むと新しい仕事を我慢する必要がでてきたり、急にお金が必要となった場合に対応しづらくなったりします。



財政調整基金 (市の貯金)

急にお金が必要になったり、収入が落ち込んだりしたときに対応できるよう、市でも貯金をしています。これを財政調整基金と呼んでいます。



※平成16～20年度は決算額、21・22年度は決算見込額

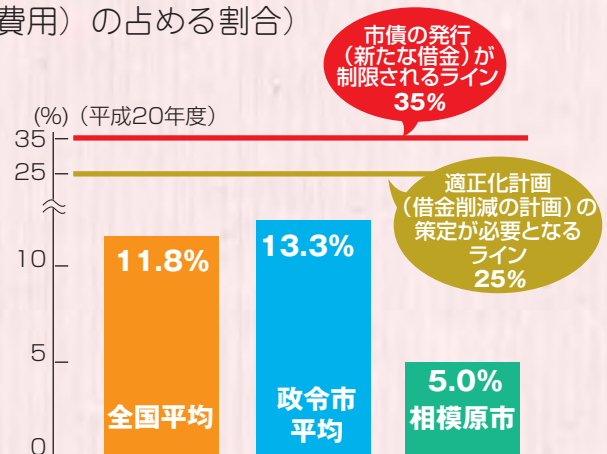
相模原市では、前年度に支出を切りつめて余裕が出たお金の半分以上を積み立てることをルールとして、積み立てを行ってきましたが、経済不況により市税等の収入が大幅に低下するなどの原因で、今年度は残高が減る見込みです。

Q2.借金をしすぎていない??

実質公債費比率 (収入に対する公債費 (借金の返済費用) の占める割合)

市町村が借金をしすぎないように、国の基準で1年間の返済額のイエロカード・レッドカードのラインが決められています。

相模原市はラインを大きく下回っています。



純資産額 (資産合計額から負債合計額を差し引いたもの)

ニュースでときどき耳にする企業などの破産は、会社のかかえる借金 (負債) が総資産を超えてしまう状態 (いわゆる債務超過) などが原因です。

相模原市の資産と負債は次のとおりです。

(平成21年3月31日現在)

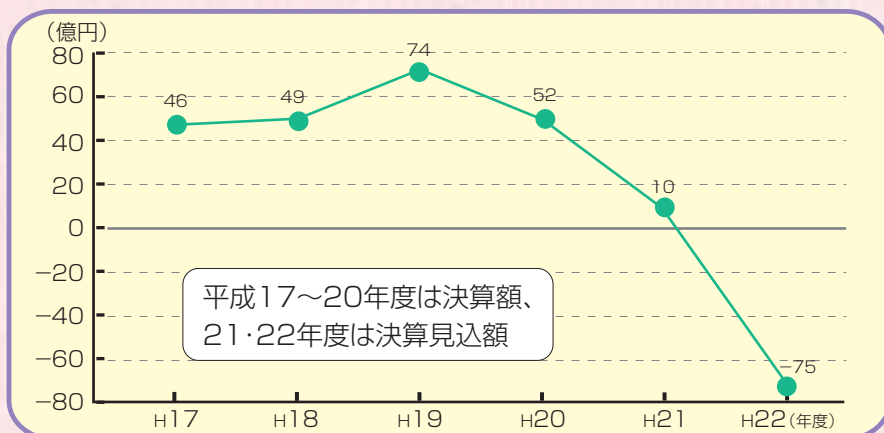
項目	一般会計と特別会計の合計	外郭団体を含めた市全体
資産合計額 (庁舎や公園、各種施設、基金など)	1兆 955億円	1兆 1,334億円
負債合計額 (市債、債務保証、引当金など)	3,791億円	3,836億円
純資産額 (資産合計額 - 負債合計額)	7,164億円	7,498億円

相模原市は資産合計が負債合計を大きく上回っています。(地方公会計制度 連結貸借対照表より)

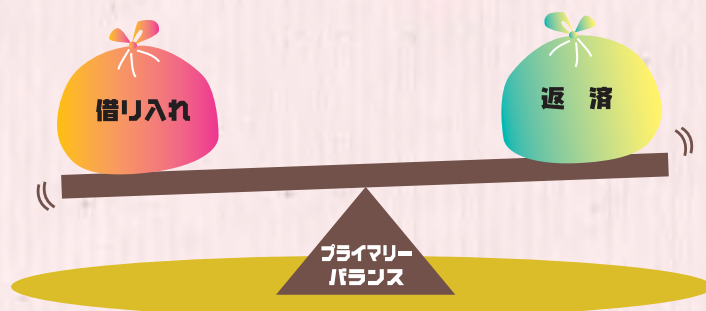
Q3.借金はちゃんと返せるの??

プライマリーバランス (借金以外の収入総額から返済以外の支出総額を引いたもの)

借金が増えているのか減っているのかを示すのがプライマリーバランスです。返す額が借りる額を超えていれば、借金の残高は減り、プライマリーバランスも概ねプラス(黒字)になります。



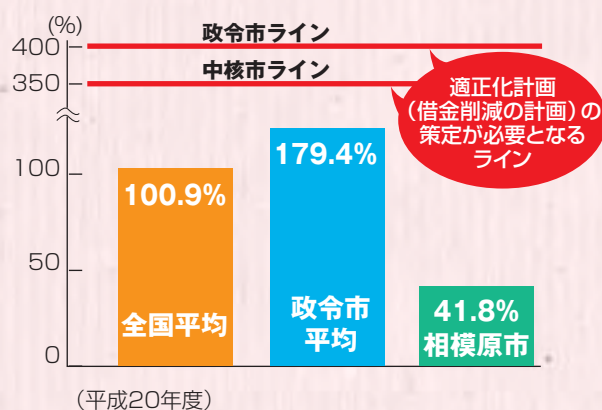
21年度は10億円の黒字でしたが、22年度はマイナス(赤字)に転じる見込みです。22年度は、政令指定都市移行に伴う新しい仕事の経費の一部を借入れによりまかなうことから借入額が増えるのに対し、この返済がまだ始まらないことから赤字となるものです。したがって、返済が始まりしばらくすると、バランスがとれる見込みです。



将来負担比率 (将来に渡って支払う必要があるものの総額を、1年間の収入総額で割ったもの)

借金や買取りを約束している土地代などの既に将来支払うことが決まっている金額などを含めた事実上の総負債額が1年間の収入総額に対しどのくらいの割合かを示したものです。一般の家庭にたとえば、ローンの残高が年収の何倍になるかを計算したものと似た指標です。国の基準で、一定以上になった場合は借金削減の計画をたてなければなりません。

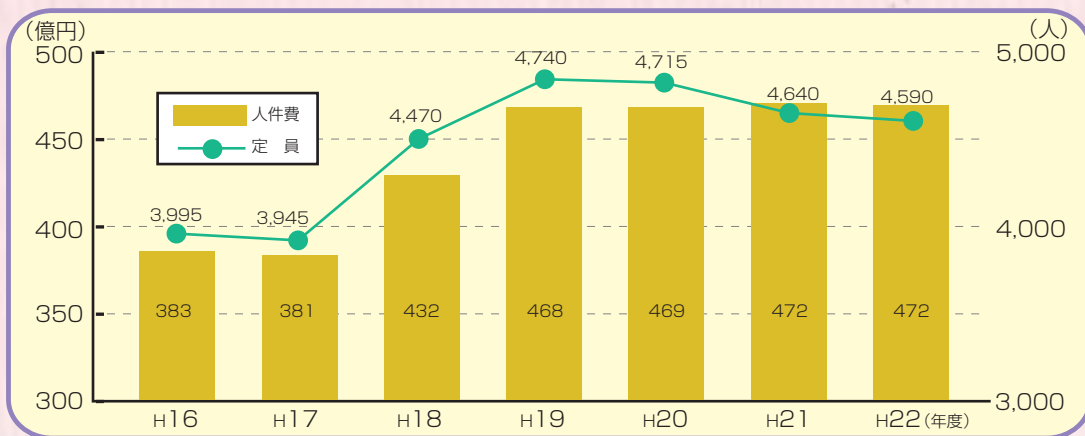
相模原市は41.8%と低い数値になっています。



健全財政に向けた 主な取り組み

相模原市では現在の健全な財政を
将来に渡り維持するため、いろいろな
取り組みを進めています。

人件費の削減



相模原市では、義務的経費の一つである人件費の削減に取り組んでいます。津久井地域との合併に伴い平成18、19年度は人件費、職員数ともいったん増加しましたが、引き続き職員数の削減を進めています。

平成22年度には職員数をさらに50人減らしていますが、退職者の増加に伴い一時的に退職手当が増加したことなどから人件費の削減効果は小幅にとどまりました。

市債発行の上限額設定 (借入れできる上限額の自主規制)

市の借金には、実質公債費比率や将来負担比率など国の基準でいろいろな規制がありますが、返済額や残高に関するもので、借入額を直接規制するものではありません。そこで相模原市では借入額に関する自主的なルールを作って健全財政の維持に努めています。

これまでの目標	5年間の新たな借入総額 800億円以内 (H17~H21)	平成22年度の借入限度額 320億円
実績	798億円 (H17~H21見込み)	278億円 (一般会計当初予算額)

平成23年度以降の目標については、今年度作成する予定です。

※平成22年度の借入実績には、補正予算等は含まれていません。

透明性の向上 (予算など財政に関する情報をよりオープンに公開すること)

市では、皆様から納めていただいた税金の使いみちなどについて、ご理解をより深めていただくため、市の予算などについての情報の公表に努めています。「広報さがみはら」や市ホームページに掲載しているほか、このような財政パンフレットの作成や財政に関する講座の開催などにも取り組んでいます。

出張講座『予算事始講座』承ります！

相模原市では、各種団体や学校等を対象に市財政に関する出張講座を承っております。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

相模原市 財務課 〒252-5277 相模原市中央区中央2-11-15
TEL042-769-8216 (直通)



相模原家の 家計簿

市の財政について、皆さんに身近に感じていただくために、市の予算を家計に例えてみます。相模原家の年収を500万円として、市の予算を当てはめてみると・・・

～相模原市の平成22年度予算を年収500万円の家計に例えると～



収入

給与	基本給 (市税)	230万円 (△43万円)
	諸手当 (譲与税・交付金・国県支出金など)	136万円 (+29万円)
親からの仕送り	貯金の取り崩し (基金繰入金)	17万円 (+2万円)
	家賃収入 (使用料・手数料など)	47万円 (+1万円)
	親からの仕送り (地方交付税)	11万円 (+1万円)
	生活資金のローン (臨時財政対策債)	19万円 (+2万円)
	家の増改築のローン (その他市債)	40万円 (+8万円)
合計		500万円

支出

食費 (人件費)	101万円 (△13万円)
医療費 (扶助費)	118万円 (+24万円)
ローンの返済 (公債費)	43万円 (△8万円)
その他の生活費 (補助費等・物件費など)	129万円 (△9万円)
家の増改築費 (普通建設事業費)	73万円 (+10万円)
子どもへの仕送り (他会計への繰出金)	36万円 (△4万円)
合計	500万円 (カッコ内は対前年比)

*このほか、ローンの残高は、438万円。
貯金は3万円を積み立て、残高が46万円になります。

収入については、昨年より基本給が減っており、貯金の取り崩しやローンが増えています。また、生活資金のローンは、親(国)の家計が苦しいため、親の仕送りにかわるものとして借入れをしています。(ローンの返済資金は親が仕送りする約束になっています。)
支出については、食費を切りつめているものの、昨年より家の改築費用が増え、さらに医療費が大きく家計を圧迫しています。

～『予算事始』の作成にあたって～

ことをはじめ
江戸時代の中期、「この本を翻訳することができれば、日本の学問を変えることができる」という高い理想と信念を持ち、オランダ語で書かれた解剖学の本の翻訳を、頼るべき辞書も無いまま手探りで取り組んだ初期の蘭学者(オランダ語で西洋の学問を学ぶ者)の苦労が書かれている『蘭学事始』という書物をご存知でしょうか？



「予算」は、市民の皆さんに納めていただいている税金などがどのように使われるのかをまとめたもので、市民生活に密接に関わっています。また、「財政の健全化」とか「財政破たん」とかという言葉もしばしば耳にされると思いますが、自分の暮らすまちの財政が健全に運営されているかどうかは、まさに、市民生活に大きな影響を及ぼす重要事項です。

一方、専門用語や仕組みの複雑さなどから、市民の皆さんに予算や財政の中身を分かりやすく説明することはなかなか難しいことですが、相模原市の予算や財政状況を分かりやすく解説し、関心を持っていただくことによって、相模原が変わっていく、そんな思いをこめてこのパンフレットを『予算事始』と名づけました。

『予算事始』を読んでいただいて、一人でも多くの皆さんに「予算が身近になった」「相模原市の財政に興味をもった」と感じていただければ幸いです。